

ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

マイライブラリー・サウジアラビア:<http://mylibrary.maeda1.jp/SaudiArabia.html>

マイライブラリー：A 2 7

(注)以下の人名、肩書、会社名等はいずれも2013年当時のものです。

アリレザ・ザイネル財閥家系図：<http://menadabase.maeda1.jp/3S-04AlirezaXenel.pdf> 参照。

サウジアラビアの財閥シリーズ4：アリレザ・ザイネル財閥

Haji Hussein Alireza/ Haji Abdullah Alireza/ XenelGroup

2004年7月

前田高行

1. アリレザ・ザイネル財閥の特色

アリレザ・ファミリーは19世紀半ばにイランからジェッダに移住したザイネル・アリレザと2人の弟が設立したサウジアラビアで最初の近代的商業財閥である。ファミリーはその後、Haji Abdullah Alireza & CompanyとHaji Husein Alireza & Company (HHA)の2グループに枝分かれし、さらに最近では工業分野を中核とするザイネル(Xenel)・グループが実力をつけ、Haji Abdullah Alirezaから独立したグループとしての存在感を高めている。

アリレザ・ザイネル・グループはジェッダ指折りの名門財閥であるとともに、サウジアラビアで最大級の財閥である。ザイネル・グループのアブダッラーはジェッダ商工会議所会頭、サウジ商工会議所連盟会頭など財界の要職を歴任した後、現在では国務相(無任所)に任命され、財界特にジェッダ財閥とサウド家の中央政府とのパイプ役が期待されている。

2. 沿革

アリレザ家は代々イラン商人であったが、1845年にアリレザは息子達を連れてジェッダに移住し貿易商をはじめた。彼は中東各地やインドから食料品、繊維製品などを輸入する商人として基礎を築き、さらに物資輸送を手掛ける船会社の代理店として事業を拡大し、一族の事業は‘The House of Alireza’(アラビア語では‘Beit Zainal’)と呼ばれるようになった。アリレザの事業は次男ザイネル、三男アブダッラー及び四男フセインに継承され、このうちザイネル/アブダッラー兄弟は1929年にそれまでの事業を統合して‘Haji Abdullah Alireza & Company’を共同設立した。同社はその頭文字を取ってHAAの略称で知られ、その後ザイネルの系統に受け継がれている。HAAは消費財の輸入販売業、海運代理店、旅行業、不動産業等の多角経営を行っており、現在のグループの総帥はザイネルの孫アハマドである

そしてアハマドの息子ムハンマドは更に事業を拡大してThe Saudi Cable Company(SCC社)を設立し

た。SCC社は電線の製造及び送電線工事を行いイランなど近隣諸国での送配電工事を請け負うなど国際的な企業に成長している。このSCC社を中核とする建設、重工業関連の企業群はXenel Group(ザイネル・グループ)としてザイネル・ファミリーの中で独立した存在となっている。

一方、アリのザの四男フセインも兄達に続いてイランからジェッダに移り、1906年にHaji Husein Alireza & Companyを立ち上げた。同社は上記のHAAと区別するため通称HHAと呼ばれており、当初は食料品、建設資材、宝石等の輸入業に携わり事業の拡大を図った。HHAは1926年には米国フォード社の輸入代理店となり、アラビア半島では始めて商業ベースの自動車輸入業を始めた。同社は日本のマツダ、独MAN社のトラック、韓国の起亜自動車の代理店でもある。現在HHAの主力事業は自動車の販売である。

このように現在のアリのザ財閥はHaji Abdullah Alireza & Company (HAA)、Haj Hussein Alireza & Company (HHA)及びXenelの三つのグループで構成されているのである(末尾「アリのザ／ザイネル財閥家系図」参照)。なお付言すればアリのザの長男アリ・アクバルはイランに残ったが、その息子達はバハレン、クウェイトなどアラビア湾沿岸に進出し、このうちクウェイトに定着した子孫は同国でKuwait Rezayat Companyを創設している。同社の現オーナーはチモール・アリのザ(Taymur Alireza)であり、ジェッダのアリのザ・ファミリーとは遠縁に当ることになる。

3. アリのザ・ザイネル・グループ主要企業の概要

3-1. Haji Abdullah Alireza(HAA)グループ

HAA財閥はザイネル(初代)が興したThe House of Alireza(Beit Zainal)を孫のアハマドが1929年に改称したものであるが、同社はサウジアラビアにおける商業登録第一号の企業である。

IIT社発行の“TOP 1000 SAUDI COMPANIES 2003-2004年版(売上順位によるサウジアラビア1000社企業番付)”によれば、同社の売上高は9.6億サウジ・リアル(以下SR、約280億円)、資本金1億SR(最新データでは1.3億SR)、従業員総数1,400人であり、1000社中の50位に位置している。

同社は下記の4 Divisionから構成されている。

- ・ General Technical Div.(GENTEC) : 通信・IT事業
- ・ Shipping Div. : 海運・物流事業
- ・ Alireza Travel & Tours : 旅行代理店
- ・ Golden Palm (for watches & jewellery) : 時計、宝石類の輸入販売

有力な子会社としてMobil Marine Transportationとの合弁企業Arabian Petroleum Supply Co. (APSCO)がある。APSCO社は1960年に設立され、Mobilの潤滑油製品販売および船舶・航空燃料を販売している。資本金は6百万SR、売上11億SR(1000社番付43位)、従業員数350人である。

3-2. Haji Husein Alireza(HHA)グループ

Haji Husein Alireza(HHA)財閥の現オーナーはフセインであり、初代フセインの孫である。HHAは1

1906年に創立、1926年に米国フォード社の輸入代理店になって以来、自動車販売を中心に成長を遂げた。現在は米国フォード(マーキュリー)、日本のマツダ、独マン社のトラック、アストン・マーチン、韓国起亜自動車等の総代理店(独占販売)、仏プジョーの一般代理店であり、自動車輸入代理店としては国内第3位である。

3-3. ザイネル(Xenel)グループ

財閥の会長ムハンマドはHAA財閥オーナーアハマドの長男であり、ムハンマド自身がHAA財閥の取締役会副会長を兼務しているように、ザイネル財閥は元来HAA財閥の一部であったが、流通・サービス・商業部門が主力であるHAA財閥の中で、電線製造・送配電工事を中心とするXenel Industriesが成長し、財閥として独立したものである。

なおXenelグループについては前章の有力企業29社個別レポートの「Xenel Industries Ltd.」の項を参照されたい。

(追記) Kuwait Rezayat Company(チモール・アリエザ・グループ)について

Kuwait Rezayat Companyは、アリ・アクバル(ジェッダのアリエザ財閥創始者ザイネルの実兄)がクウェイトで創設した企業グループである。クウェイト、サウジアラビア東部地区を含むアラビア湾北部を事業基盤としており、会長はチモール・アリエザ。

Rezayatはサウジアラビアにおいて1975年にNational Contracting Company Ltd.(N.C.C.)を設立し、同社は発電所・送電線の建設据付工事を得意としている。なおNCCは住友金属及び住友商事との間で合弁事業National Pipe Company (NPC)を設立しており、ダンマンで石油及び淡水パイプライン用の大径鋼管を製造している(会長：チモール・アリエザ)。

4. グループの今後の役割

アリエザ・ザイネル・グループのHaji Abdullah Alireza(HAA)社はサウジアラビアで最初に商業登録された会社でありサウジアラビアの名門財閥である。グループの一族は常にジェッダ財界の中心的役割を求められ、4名のHAA株主の一人であるアブダッラーはジェッダ商工会議所会頭及びサウジ商工会議所連盟会頭を歴任したジェッダ財界の重鎮である。

アブダッラーは2003年に国務相のポストに就き、その後2008年には商工相に任命された。財閥一族の閣僚就任はこれまでもゴサイビ財閥、ザーミル財閥など東部財閥にその例が見られるが、ジェッダの財閥ファミリーの例は初めてである。従来、ジェッダの財閥とサウド家の関係は疎遠であり、むしろ互いに敬遠或いは無視する傾向すらあったからである。

しかしながら近年深刻化の一途をたどる若年者失業問題や、行政効率化のための民営化方針遂行のためには、民間部門特に商業・サービス部門を握るジェッダ有力財閥の協力が不可欠となったと考えられる。このことを痛感したアブダッラー国王はジェッダ財界とのパイプ役としてアリエザ・ザイネル財閥のアブダッラーを商工相に抜擢したのである。因みにほぼ同じ頃サウジ総合投資院(SAGIA)の新総裁(閣僚級ポスト)として同じくジェッダの有力財界人であるダッバークが任命されている。これら

一連の動きは外国からの投資誘致による産業振興と雇用創出を悲願とするサウジ政府が民間企業特に有力財閥の協力が不可欠であることを認識したためと考えられる。しかしながら外国製品の輸入を通じて商業財閥として財を築いてきたアトレザのような商業型の財閥にとって外国企業との合弁の製造事業に手を染めることは簡単ではないであろう。また政府のサウジ人の雇用促進政策いわゆる **Saudization** 化は人件費の高騰を呼び、政府の方針に率先して従うことは国内の他のライバルとの競争に不利になることは明白である。

さらにWTO加盟のような政府の市場開放政策もサウジの地場企業、特に中小企業にとっては死活問題とも言える。大財閥であり、国際ビジネスに精通したアトレザ・ザイネル・グループ自身にとって、WTO加盟や民営化はグループ拡大のビジネス・チャンスであることは間違いないが、他財閥や多くの中小企業とどのように調和を保っていくのか難しい判断を迫られるケースも考えられる。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田高行 〒183-0027 東京都府中市本町2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp